

TRANSITION TO HEALTH (062)

“高血圧は慢性疾患”ではない ⑪

～ 心臓は ^{こころ}心の臓器・司令塔、心臓が血圧を決める～

はじめに

前々号 No.60 で「次回は、『心臓』についての情報です」と予告したにもかかわらず、前号では「降圧剤に頼らない血圧管理」の話をいたしました。今回、1号遅れとなりますが、約束通り『心臓』の情報、「心臓は単なる血液を押し出すポンプ・筋肉の塊ではなく、全身のシステムをコントロールする司令塔である」というお話をいたします。

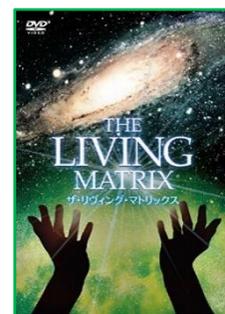
心臓はすべての起点

胎児の心臓は妊娠 3 週末（胎生 1 週末）には形成され、妊娠 4 週（胎生 2 週末）には拍動を開始し、脳よりも早く、妊娠 6 週初期には機能し始めます。血液は大動脈弓（鯉弓）を通り、背側大動脈から全身に送られます。心臓の筋肉は、脳からの刺激ではなく、大静脈と右心房の繋ぎ目のところにある洞房結節（洞結節）から発せられる電気刺激により制御され収縮します。決して脳に制御されてはいません。「脳死」状態では心臓はまだ生きています。しかし、「心臓死」状態では「脳」は生きられず、「完全なる肉体の死」を意味します。全ては「心臓」で始まり「心臓」で終わるのです。

心臓は未来を予知・予測する

「心臓は単なる血液を押し出すポンプ・筋肉の塊ではなく、生命場（エネルギー・フィールド）から情報を受け取り、脳・神経系・内分泌系等の全てに対して信号を発信し、それらをコントロールする司令塔である。」という考え・理論を支持する DVD がありますので、今回ここに紹介いたします。

ヒューマン・ボディー・フィールドの量子物理学から心拍のコヒーレンス、情報医療まで、科学者、心理学者、生体エネルギー研究者、ホリスティック療法士たちが、それぞれの知識と経験に基づいて、ヒーリングの革新的な科学的理論を展開し、将来の医療に与える影響について意見を述べている DVD があります。その DVD は『THE LIVING MATRIX』で、8年前の 2009 年にアメリカで製作され、2012 年 12 月に日本語字幕付き（右上写真）で日本コロムビアから発売されています。この中の 1 つのチャプター「心臓が記憶を刻む」からある実験結果をご紹介します。



「私たち人間の体は未来を予測する」というデータの蓄積は数多くあります。そこで行われたのがここに紹介する実験です。私たちは「胸騒ぎがする」「気配を感じる」「嫌な予感がする」「殺気を感じる」などという表現をよく耳にしますし、体験もします。このような「これから起きること（近未来）を予知する」感覚は、誰しも経験したことがあると思います。



公益財団法人 静岡県産業労働福祉協会

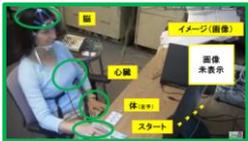
〒421-0113 静岡市駿河区下川原 6 丁目 8 番 1 号

TEL054(258)4855(代) FAX054(258)4403

<http://www.kenshin-shizuoka.net>

E-mail: info@kenshin-shizuoka.net

実験は、女性被験者の「脳」「心臓」「体（左手）」にセンサーを付け、右手にマウスを握らせる。被験者がマウスをクリックすると、約7秒後にパソコン画面に或る画像が現れる。現れる画像は「花」「夕焼け」「コブラの攻撃」「自動車事故の被害者」などで、どの画像が現れるかは、実験者（研究者）にも被験者にもわからない。コンピューターがランダムに選択する。そして、どの部位が、どう



いう順番に、どんな反応（波形）をするかを解析したのです。

【右図・上】被験者がクリックしてスタートすると、まずはじめに反応したのが心臓[1]で、次に脳[2]が反応した。しかし、まだ7秒を経過していないので、画面には画像は現れていない。

【右図・中】脳[2]の次に体（左手）[3]が反応したが、この時点でも画像は未表示である。【右図・下】体（左手）[3]が反応した後、7秒が経過し、初めて画面に画像[4]が表示され、その後、初めて意識[5]にのぼったのです。

「脳 → 心臓」ではなく「心臓 → 脳」

私たちは、画面に「コブラの攻撃」「自動車事故の被害者」などの画像が表示され

た場合、「視覚を通して脳に伝わり、意識にのぼり、不快感や恐怖感を感じて、心臓がドキドキしたり、体が震えたり、のけぞったり、冷や汗をかいたりする」と思うのではないのでしょうか。ところが、実験結果はそうではなかったのです。研究者たちは、画像の表示前に体（左手）が



反応することは初めから分かっていたのですが、問題の1つは「脳が先か、心臓が先か」でした。結果は「心臓が先」でした。「脳は決して心臓を支配するものではない」ことは、移植された心臓がレシピエントの脳とは繋がっていないことから明らかです。「体が未来を予知する」というのは、正確には「先ず心臓が未来を予知する」だったのです。また、記録された波



形は、「花」「夕焼け」「コブラの攻撃」「自動車事故の被害者」で、各々すべて異なっていたのです。心臓は、明らかに未来を正確に予知・予測していたのです。この研究者は、“直観の電気生理学”と称して、右表のように総括していました。この中で、「心臓の神経細胞は短期記憶・長期記憶することができ、情報を処理し、脳機能を担っている」と言っています。このことの正しさは、心臓移植において、レシピエントが、ドナーの性格・趣味・嗜好・思想の影響を受けたという報告が少なからずあり、また、レシピエントの子供や女性の夢が、ドナーの実体験や事故死の瞬間であったという複数の報告まであることから窺い知ることができます。

あなたの血圧は心臓が決めている

「あなたの血圧は誰が決めているのか？」それは「心臓」です。心臓は文字通り『心の臓器』です。脳ではなく心臓自らが、一回拍出量・心拍数をコントロールして、臓器血流を維持するために血圧をコントロールしているのです。

生活習慣を修正・改善することなく、誤った生活習慣を継続しながら、降圧剤という薬物で末梢の血管を拡張させて血圧を下げたり、本来人間に備わった血圧を上昇させるシステムをブロックしてまで、強引に血圧が上がらないようにしてしまうと、心臓は、臓器血流を維持するために心拍出量・心拍数を増やして対抗しなければなりません。その結果、心臓は次第に疲弊してしまうことがあるのです。降圧治療を受けている方の場合、末梢（上腕動脈）の血圧値だけを見て判断してはいけません。心臓の状態も評価しなければいけません。あなたの血圧値は「降圧剤」と「心臓」との葛藤の結果なのです。『脱薬』を達成してください。（最後に、今回紹介したDVD『THE LIVING MATRIX』を是非ご覧ください。）

